# 「反逆の印鑑」

―初稿―

2026/9/21

脚本 太郎

〈人物表〉

黒川　慎平　（２７）　サラリーマン。坂下の弟子

坂下　実　（５０）　印鑑術の達人。黒川の師匠

佐川　健蔵　（３７）　黒川の上司

1.

**会社・オフィス（昼）**

メガフォンを持った佐川健蔵（３７）が、黒川 慎平（２７）に何やら叫んでいる。

黒川、泣きながら何枚もの書類に印鑑を押す。

オフィスの至る所で同じことが起こっている。

黒川、印鑑を押すスピードが遅くなってくる。

佐川の恫喝がより激しくなる。

×　×　×

黒川、デスクに突っ伏してしまう。

2.

**会社・入口（昼）**

摘み出される黒川。

3.

**道路（昼）**

会社入口付近の道路。

黒川、路面をゴロゴロと転がり、塀にぶつかって止まる。

道着姿の坂下実（５０）、付近で黒川を見ている。

黒川、ゆっくりと半身を起こす。

手に持っていた印鑑を放り捨てる。

悔し気にアスファルトを殴りつける。

坂下、黒川の印鑑を拾う。

黒川に近付く。

黒川に印鑑を渡す。

黒川、不思議そうな表情でそれを受け取る。

4.

**道場（昼）**

坂下、一礼して入室。

黒川、困惑気味にキョロキョロしながら入室。

道場の中心に瓦が二つ置いてある。

坂下、瓦の内の一つ目の前に移動。懐から印鑑を取り出す。

印鑑を瓦に叩き付ける。

瓦が割れる。

黒川、驚愕の表情。
坂下、割れていない方の瓦を手で示す。
黒川、驚いて激しく首を振る。
坂下、微笑む。
懐から、佐川の顔が印刷されたコピー用紙を取り出す。
それを瓦の上に置く。
黒川、激高の表情。
震えながら瓦に近付く。
ポケットから印鑑を取り出す。
瓦に叩き付ける。
瓦、ビクともしない。
痛みに右手を押さえて蹲る。
坂下、呆れたように溜息。
×　×　×
黒川、印鑑を振り下ろす。
痛みに右手を押さえて蹲る。
坂下、呆れたように溜息。
×　×　×
黒川、印鑑を振り下ろす。
痛みに右手を押さえて蹲る。
坂下、呆れたように溜息。
×　×　×
黒川、疲れ果てて倒れこむ。
印鑑が転がる。
坂下、印鑑を拾う。
黒川に差し出す。
黒川、首を振って坂下の手を払う。
坂下、悩ましげな表情。
瓦の上に置いていたくしゃくしゃになったコピー用

紙を自分の顔に当てる。
黒川、激高。
坂下から印鑑を引ったくる。
坂下の胸部に叩き付ける。
坂下、衝撃で吹っ飛ぶ。
壁に激突。吐血。
黒川、驚愕の表情。
坂下、床にうつぶせで倒れる。
黒川、急いで坂下の元に駆け寄る。
坂下、震える手でサムズアップ。微笑んでいる。
黒川、すっかり狼狽。
坂下、黒川が手にしている印鑑を指さす。
黒川、ハッとする。
坂下、事切れる。
黒川、印鑑を握り締める。
決意の表情。

## 5. 会社・入口（夜）

道着姿の黒川、入口に近付いていく。

## 6. 会社・オフィス（夜）

多くの社員たちが上司たちにメガフォンで恫喝されながら書類に印鑑を押し続けている。
黒川、悠然と入室。
誰も反応しない。
黒川、全指の間に挟んだ印鑑を投擲。
全印鑑が上司たちの額に命中。
上司たち、即死。倒れる。
オフィス中を悲鳴が響き渡る。
社員たち、黒川を避けるように外に逃げていく。
黒川、まっすぐ前を見つめる。
唯一生き残った上司、佐川が嘲笑するように立っている。
佐川、懐から印鑑を取り出す。

構える。
黒川、驚愕の表情。
息を一つ吐く。
覚悟を決めた表情。
懐から一本の印鑑を取り出す。
構える。
黒川と佐川、同時に駆け出す。

終